テーマ： 相撲

対象年齢：5歳児

荏原西第二保育園（品川区）

設定の理由

子どもの日の行事で「相撲ごっこ」を楽しんだことをきっかけに、「力士は何を食べているの？」「どれぐらい大きいの？」など、子どもたちが相撲というスポーツに興味を抱き始めたことから、国技である相撲を通じて日本の伝統文化に親しみ社会とのつながりに関心をもてるようにしていくため

活動事例①　～おすもうさんと出会う～

力士に会い、自分たちの知りたいことや分からないことを尋ねる

環境をデザインする

紙・サインペン・画用紙

探求活動を実践する

・グループごとに聞きたいことを力士に質問をした。やはり、「何を食べて大きくなったのか？」を疑問に思う姿が多かった。子どもたちは「ごはん」「お菓子」「ちゃんこなべ」など自分たちなりに予想していた。
・力士から「好きなごはんは、みそちゃんこ鍋」ということを答えてもらうと、「やっぱりちゃんこを食べたら大きくなるんだ！」と「ちゃんこ鍋」に興味を示し、嬉しそうにしていた。
・力士の身長や体重、手の大きさ、腰回りなどにも興味を示し、自分と力士の大きさを比べていた。

振り返りをふまえた気づき

実際に力士に会い、相撲に対する興味関心がより深まっていくのを感じた。子どもたちのつぶやきの中で、「ちゃんこを食べてみたい」「大きさ比べをしたい」「でわのりゅうさん（お会いした力士の名前）がすもうをやっているところが見たい」という言葉もあがっているので、次への関心へとつながるような環境を整えていきたい。

活動事例②　～　ちゃんこ鍋をつくろう　～

・ちゃんこ鍋屋に行ってちゃんこ鍋の材料を調べ、八百屋で具材を購入する
・クッキング保育でちゃんこ鍋（豚汁）を作る

環境をデザインする

・近隣のちゃんこ鍋屋に材料と作り方を子どもたちが聞きに行く
・近隣の八百屋に材料を買いに行く
・クッキング保育の用意

探求活動を実践する

・前月来園した力士が「みそちゃんこが好き」と話していたことから、ちゃんこ鍋に興味を示すようになった。そこで、クッキング保育でちゃんこ鍋（豚汁）を作ることにし、子どもたちに話をする。その後、A くんが自宅で、ちゃんこの具材は何が入っているのか調べて、園に持ってきたことをきっかけに、他児もちゃんこ鍋には何が入っているのか調べてみようとする姿が見られるようになった。
・クラスの話し合いの中で話題に出していくと、「商店街でちゃんこ屋さんを見たことがある」「お店の人に聞けばいいのではないか」という声が挙がり、後日クラスで近隣のちゃんこ鍋屋さんを訪問し、お店の方に具材を聞きに伺った。
・聞いてきた具材の中から、クッキング保育に使えるものを調理士に確認し、自分たちで八百屋さんに材料を買いに行った。
・クッキング保育でちゃんこ鍋（豚汁）を作り、みんなで美味しく食べていった。「ちゃんこを食べたら本当に大きくなるのか？」という声もあがり、食べる前と食べた後の体重比べも行った。

振り返りをふまえた気づき

・自分たちが疑問に思ったことを、実際お店に伺い、お店の方に聞いて知るという過程が子どもたちにとってはとても良い経験になった。
・自分たちで調べる、買う、作るという経験をしたことで、ちゃんこ鍋により期待を抱いて活動に臨む姿へとつながった。
・「ちゃんこを食べたら本当に大きくなるのか？」という声が子どもたちから挙がったように、保育者がデザインした環境から、さらに子どもたちのもっと知りたいという関心の幅が広がってきたように感じる。

活動事例③　～ぞう組部屋大相撲開幕！～

・大相撲の中継を見る
・自分たちのまわしをつくる
・保育参観で保護者と相撲をとる

環境をデザインする

・大相撲中継を見られる時間を作る
・まわし作りに必要なものを用意する（青松晒、染料、定着剤）
・大相撲決まり手大図鑑、土俵マット

探求活動を実践する

・夏頃から、大相撲が行われている期間、テレビで相撲中継を見られるようにした。すると、「相撲をとる前には化粧まわしを身につけて『土俵入り』というものをすること」、「力士によってまわしの色が違うこと」「相撲には決まり手があること」「勝った時の所作がある」など、子どもたちなりの気づきがあった。
・自分たちもまわしを身につけて相撲をとりたいという声があがったので、自分たちの好きな色の染料を使って「まわしづくり」を行った。
・保育参観で、「相撲ごっこ」を行う。自分たちが作った「まわし」を身につけて全員で土俵入りを行ったり、保護者を相手にして相撲をとったりして楽しんだ。

振り返りをふまえた気づき

・自分の手作りまわしができたことでさらに大相撲に対するイメージが湧き、自分たちが見聞きしたことを再現して楽しめるようになった。
・化粧まわしも作ってみたいという声もあがってきているので、次の展開として自分の化粧まわしも作れるようにしていきたい。（実際、自分の目で本物を見られるような機会を作れると良い）

活動事例④　～　本物に触れる　～

・両国へ園外活動に行く（相撲博物館、両国国技館）
・両国駅周辺にある相撲部屋を巡りながら、出羽の海部屋を訪問し、力士の方と交流をする

環境をデザインする

・保育室に両国の地図を貼り、興味をもてるようにする
・今までの活動の写真を印刷し、出羽ノ龍さんに渡す手紙を子どもたちと作成する

探求活動を実践する

・夏に保育園に来園していただいた力士が在籍している相撲部屋を訪問し、この1年間の相撲ごっこの活動の取り組みを知らせたり、手紙を渡したりして交流をもった。また、普段稽古をしている「稽古部屋」を見せていただき興味深そうに見学する姿があった。
・相撲博物館では、本物の化粧まわしや優勝トロフィーを鑑賞した。普段図鑑や、テレビ中継で見ているものを目の当たりにし、「すごく大きいね！」「」と自分たちの気がついたことを友達同士で話し合う姿も見られた。

振り返りをふまえた気づき

・実際に両国に訪れ沢山の力士に出会えたことで、嬉しさと共に今までテレビや本で興味関心を深めていたことの現実味が帯びてきた。
・相撲博物館で実際の化粧まわしを見ることが出来たことでイメージが膨らみ、製作意欲へと繋がっていった。